

地域の「やってみたい」を応援する情報誌

みんな



いろいろな言葉の飛び交う四街道へ

皆さんの周りでも外国の方を見かける機会が増えてきているのではないのでしょうか。今号では、市内に暮らす外国の方の現状と、外国人向けに日本語学習教室を開いている四街道市国際交流協会の活動をご紹介します。

国籍を超えて歩み寄る



生活する上での言葉の壁

四街道で暮らす外国人は住民基本台帳によると約2300人（平成31年4月現在）です。国別ではアフガニスタン、中国、フィリピン、ベトナム、韓国、台湾の順で人数が多く、約50か国の方が生活しています。

外国人が日本に来て感じる言葉の壁。言葉がわからないが故の不便さや生活のしにくさはあったのでしょうか？

在日18年の台湾出身の林雅恵さんは「来日した当初は日本語が全くわかりませんでした。でも近所の方や幼稚園のママ友の中に親切な人がいて、優しくしてもらったおかげで、日本の生活やルールなどを知ることができました」と話します。身近にいる私たちからのアプローチが、実はこのまちとつながる入り口かもしれません。

ある地区で、ごみの出し方を外国の方に知らせたいが言葉がわからないということがありました。四街道市国際交流協会（以下YOCCA）では、市内在住外国人市民との共生を目的とし、作成を廃棄物対策課（クリーンセンター）に提案協議し、その方の母国語に訳した説明の掲示物を作成しました。出来上がった外国語によるごみの出し方は、市のホームページから見ることができます。

地域で生きていくために

YOCCAは市内に住む外国人のために様々な支援を行っています。その中でも外国人の日本語学習支援として「にほんご教室」を開いています。先日この教室に通う女性を対象に防災講座がありました。これは昨年末に起きた火災をうけての取り組みです。当日は消防士の説明を外国語に通訳して、火災が起きたときにとるべき行動を学びました。説明の後は実際に消火器を使つての消火訓練も行いました。その際お母さんと一緒に来た小学生の子どもが通訳

をしましたが、日本語の説明を聞きながらすぐに母国語で話し、大人たちもみんな熱心に聞いていました。現在市内には190名ほどの外国籍の子どもたちが学校に通っています。子どもたちが日本の学校に通いだすとき、言葉も習慣も何もわからないままに学校生活に入っていくこととなります。しかし言葉の習得が大人より早く、子どもが通訳として、日本社会との橋渡しをしている家庭も多いと聞きました。

言葉がわからないと、何が不便で何ができないのか、私たちも考え歩み寄ることが必要かもしれません。



外国語で書かれた防災講座の資料

外国人のための 日本語学習教室

連絡先

ヨッカ
四街道市国際交流協会 (YOCCA)
住所：四街道市鹿渡 2001-10
市役所第二庁舎1階 国際交流センター内
電話：043-312-6173
HP：http://www.y-o-c-c-a.org/



YOCCAは、その一方の前身である四街道国際交流友の会（平成10年設立）が在住外国人の支援をしていたことを引き継ぎ、四街道で暮らしている日本語を母語としない方々を対象に、日本語を学ぶお手伝いをしています。

日本語学習部会の登録ボランティアは総勢80名。メンバーは退職後時間に余裕のあるシニア、主婦、海外在住経験のある人など多彩な顔ぶれです。自分が海外に赴任した時に現地の人の優しさに支えられた感謝を今四街道で恩返ししている、と話すメンバーもいました。

この教室では、日本語の習得はもちろん、日本の生活にも馴染めるよう学習を通してサポートしています。病院での対応、学校からの手紙、また子どもたちの高校進学についてなど、わかりにくい日常生活のことについて、一緒に考え寄り添っています。文化は違っても同じ人として、ざっくばらんにやり取りしているにほんご教室の様子を見て、外国人、日本人という壁を作らないことの大切さを感じました。

壁をつくらず付き合っていくこと

ゴミの出し方、学校の手紙の内容、自治会活動、病院の利用についてなど、日本の生活の中での決まりごとや知っている便利なことはたくさんあります。近くに相談できてざっくばらんに話せる隣人がいることは心強いことです。日常の中でふと外国の方や、その暮らしぶりなどに気が付いた時、そのままにせず関わっていく勇気が大切だと感じました。

お互い知らなくて当たり前、知らないからこそまずは挨拶から初めてみませんか？ 相手を、そして相手の文化を知らないことからくる不安で、外国人を遠ざけるようなことのない四街道でいたいものです。

言葉がわからない、文化が違う、ということにとらわれず、相手を理解したい気持ちをもって接する。そして時には関わり、時には関わりすぎないこと、それは日本人も外国人も同じです。お互いが関わりあって世界中の言葉が飛び交う四街道になったとき、大人にとっても子どもにとっても視野を広げ経験を深める、魅力的なまちといえるでしょう。

日本語学習部会長の小島英俊さんは「これから外国人はさらに増えていくでしょう。もっと多くの方ににほんご教室に参加してもらい、学習の回数を増やしていきたいと考えています。そのためには、教室を開催できる場所と、教えるメンバーが必要です」と話します。言葉や文化が違って通じ合いつながらることを目指して、外国の方の立場に立ったサポートを続けていきます。



にほんご教室の様子

ピックアップ

コーディネーターが
相談にお応えします



みんなで地域づくりセンターは、まちをもっと住みやすくしたいと活動する皆さんを支え、応援しています。

コーディネーターは、NPO・ボランティア団体はもちろん、区・自治会、商・工・農業者、学校、サークルなど地域活動に関わる市民、団体の情報の収集に努めています。そして相談にいらした皆さんとさまざまな人や活動・場をつなぎます。過去の相談例をご紹介します。

障害がある人の生活介護事業所からボランティア活動の場を探しているという相談を受け、市内のコミュニティレストランにつなぎ、外回りの清掃作業をご紹介します。また、市内の医療法人から地域の健康づくりに貢献したいとの相談

には、四街道市地域包括支援センターをご案内しました。その後リハビリテーション専門職による講座や在宅介護に関する相談窓口を併設したカフェが開設されました。

店舗の一部を地域活動のためのスペースとして提供したい、保育の授業で高校生と実際に触れ合う乳幼児親子を紹介してほしい、より有効な組織の運営方法や広報について知りたい…。寄せられる相談は多岐にわたります。センターでは、その一つひとつについてじっくりお聞きし応えています。

相談は、センターの窓口ほか電話でもお受けいたします。

お知らせ

みんなで地域づくりセンターでは、これから地域で何かしたい人、すでに活動している人をサポートするプログラムや講座を実施しています。

お問い合わせは、
みんなで地域づくりセンターへ
お電話ください。

Tel.: 043-304-7065

地域づくりサロン「誰も置き去りにしない・されない地域づくり」 公開講座「外国にルーツを持つ人達の現状を知る」

日時：7月2日（火）13：30－16：00

場所：わろうべの里 食のスタジオ

内容：にはんご教室を通して見た外国人市民

講師：小島英俊さん（四街道市国際交流協会 日本語学習部会長）
多文化フリースクールの現状

講師：白谷秀一さん（NPO法人多文化フリースクールちば）
四街道市教育委員会から市内の現状について（予定）

※ 参加費無料。要申し込み（下記電話またはメールにて）

みんなで地域づくりセンターは、文化センターの耐震補強工事のため今年7月から来年3月まで文化センター休憩室（旧レストラン）に移転いたします。詳細については、ホームページにてご案内いたします。

編集後記

生まれ育った場所と違うところで暮らすって・・・四街道から離れたことがほとんどない私は、海外で暮らすなんて想像も及ばない。日本語以外話せないの、コミュニケーションはおおむねジェスチャーであろう。それは何とかなるかもしれない。しかし、文化や風習は一朝一夕ではどうにもならない。その国の人と交流しない限り得られるものでもないし、慣れるまでは相当な時間もかかる。そんなことを想像してみたら、海外から日本を選んで住んでいる方たちと話をしてみたいと思う。（チョコ）

四街道市みんなで地域づくりセンターについて

四街道市みんなで地域づくりセンター
（四街道市シティセールス推進課分室）

開館日時：火～金 9:00～20:00 / 土 9:00～17:00

休館日：日・月・祝日・年末年始

所在地：四街道市大日 396 四街道市文化センター 1階

Tel.: 043-304-7065 Fax.: 043-422-7051

E-mail: info@minnade.org

Web: http://minnade.org/

みんなでNo.20

編集・発行：四街道市みんなで地域づくりセンター

発行日：令和元年6月1日 発行部数：4,000部

配架場所：市役所、公民館、図書館など センターのHPからもダウンロードできます。

表紙の写真：にはんご教室で学ぶ皆さん

ホームページ



フェイスブック

